



もちの木とともに

内原小学校学校だより
第 11 号
令和元年 10 月 4 日発行

9月11, 12日に、5年生が宿泊学習を行いました。水戸市少年自然の家に1泊し、ウォークラリーやキャンプファイヤー、飯ごう炊さんによるカレーづくりなど、さまざまな活動を通して、友達との共同や自然との触れ合いを体験してきました。また、今年は内原中学校区の3小学校が同日に宿泊し、キャンプファイヤーなどを合同で実施するという試みがありました。2年後に同じ中学校で生活することになる児童が、共通の土台となる体験をもつことができたことは、大変意義深いことだと思います。

約1か月が経って、もちの木まつりへ向けて取り組む姿に、高学年としての自覚が見られる5年生が増えてきました。半年後、最高学年としてのよいスタートが迎えられるように、6年生とともに、内原小学校をけん引して行ってほしいと思います。



宿泊学習を終えて

5年 Mさん

私は、班長をしました。初めは、班長はとても難しい仕事だと思っていましたが、あまり難しくはありませんでした。それは、班のみんながたくさん協力してくれたからです。

ウォークラリーでは道をまちがえてしまったけれど、みんなが、てきぱき歩いてくれて1時間19分でゴールできました。カレーづくりでは、みんながきちんと分かれてくれて、いろいろアドバイスをし合って、少し炭も入ってしまったけれど、今までで1番おいしいカレーができました。

ウォークラリーで友達がけがをしてしまったときには、みんなが心配してくれて、別の友達がばんそうこうをはってあげていました。最後の方では、疲れてしまった人が出てしまったけれど、みんなが「大丈夫？荷物をもつよ」と言って荷物をもってあげたり、歩くスピードをゆっくりにしてあげたりして、気をつけてあげていました。最後の坂道では、みんな仲良く、手をつなぎゴールすることができました。また、キャンプファイヤーでは、みんなが仲良く手をつないでダンスをしたり、ゲームをしたりして、とても楽しかったです。

今回の宿泊学習では、たくさんのことを教えてもらって、みんなの思いやりが増え、いろいろな体験ができて、よい2日間になったと思いました。

ダンスの練習. がんばってます！

19日(土)のもちの木まつりに向けて、連日、縦割り班でのダンス練習が行われています。6年生が曲に合わせてダンスを創り、5・6年生が覚えて、下学年の子どもたちに手本を見せながら教えていく…当たり前のように思えますが、10~12歳の子どもにとってはとても大変なことです。しかも、大きな声などは出さず、できない子には個別に優しく、粘り強く教えている姿が見られます。教師も黙って必要な時以外は手を貸さず、高学年のがんばりを見守っています。「こうして、伝統は引き継がれていくんだな」と思い、心が温かくなりました。そんな、内原小学校全児童の思いのこもったダンス発表、当日のパフォーマンスを楽しみにしててください！